

国語科学習指導案

令和元年11月6日(水)
第4学年

授業の視点

ごんと兵十が最終的に分かり合えたかどうかを検討する上で、二人の心情のあり方を表すベン図を活用したことは有効であったか。

I 単元名

テーマを決めて、本をしょうかいしよう
『ごんぎつね』／「読書発表会」をしよう

【重要課題 ②子どもたち】

II 単元の考察

1 児童の実態（児童観）

(削除)

2 教材について（教材観）

- (1) ごんは「小」ぎつね＝大人（少なくとも青年期であり、子供ではない）の狐である。ごんのいたずらは村人にとっては死活問題であり、殺意の対象にもなり得た。
- (2) にもかかわらず、「わたし」がごんぎつねを親しみを込めて「ごん」と呼んでいる。茂平から話を聞いた「わたし」がごんぎつねの変容を知っているからだ。
- (3) 6の場面で、くりをくれたこと以外のごんの言動を兵十は知り得ない。そもそもごんの「償い」も一方的な思い込みから始まっており、その心情も兵十は知り得るはずがない。この物語は「ごんと兵十は全て分かり合えたわけではない」という結末になる。
- (4) 物語冒頭の一文が入っても入らなくても、物語はスタートする。それなのに、一文が入っているのはなぜか。ごんの物語を村人に伝えたのは兵十だからである。「茂平に話を伝えたのは誰か。」という点から物語の全体構造をつかむことができる。
- (5) 兵十が村人に語ったのは、うなぎ事件とごんを撃ってしまった事件以外、兵十の推測によってつなぎ合わされた物語である。「おれと同じひとりぼっちの兵十か。」という内言も、ごんに語らせたのは兵十である。ごんは「ひとりぼっち」から脱却する前に命を落とし、兵十は「ひとりぼっち」が続いていく。「ごんぎつね」の物語は兵十の物語でもある。兵十は、ごんに仮託して自分自身の物語を村人に伝えた。『「ひとりぼっち」からの脱却』がこの物語のテーマであるともいえる。

III 目標及び評価規準

1 目標

登場人物の移り変わって行く行動や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像しながら読み、物語の主題を考えることができる。

2 評価規準

関心・意欲・態度	読む	書く	言葉
登場人物の移り変わって行く行動や気持ちを想像しながら読み、物語にそった主題を考えようとしている。	登場人物の移り変わって行く行動や気持ちを、情景描写などとも関わらせながら、想像豊かに読んでいる。	主題を考えるなど、関心のあるところから書くことを決めて書いている。	性格や人物を表す言葉が、文中で使われていることに気づいている。

3 学習を進めるにあたっての支援及び留意点（指導観）

- (1) 自分の意見を堂々と発表する力を育てるため、第一段階として徹底的に音読させる。追い読み、交代読み（教師と児童、児童と児童）、列読み、自由起立による音読等、段階を踏んで全員の前で音読する力を育てていく。

第二段階として、自分の考えをノートに書き、その上で自由起立により発表をさせる。指名されなくても自分の意思で起立し、全員の前でしっかり発表する経験を積ませる。

最終的に、自由起立による討論できる力を育てる。相手が挙げた根拠やその理由に対して適切なタイミングで自分の意見を発表し、叙述に即して展開させていく。そのために、思考の型・ノートの型ともいべき「アウトラインシステム（〇〇である。なぜなら～。たとえば～。もし、～なら、～。だから〇〇である。）」を活用できるよう指導していく。

- (2) 叙述に即した読解力を育てるため、自分の意見の根拠となる記述を挙げさせ、なぜその記述が根拠になるのか理由を発表する学習技能を身につけさせる。具体的には、「〇〇（に賛成・反対）です。なぜかという、□ページの△行目に『～。』と書いてあるからです。」と、発表の際に言えるように指導する。

叙述を離れた「空中戦」にならないよう、必ず根拠となる言葉や表現を探すようにさせる。

- (3) 登場人物の行動や気持ちを想像しながら読み、どのような話かを表す副題をつけ、本のおもしろさを紹介するという単元の見通しをもたせる。ここで「副題」（サブテーマともいう）をつけるねらいとしては、次の『読書発表会をしよう』につなげる意味で、この物語を読みたくなるように、内容をわかりやすくしたり、内容を引き立てたりするようなことがある。
- (4) 登場人物の性格は、その人物の感じ方や考え方、行動などに見られる特徴である。言葉や行動、様子などに表れる性格をつかませるために、単に「〇〇なきつね」と指摘するだけでなく、なぜ「〇〇」なのか、あるいは、どうして「〇〇」になったのかなど、描かれているごんの言動を通して話し合わせる。
- (5) 登場人物の気持ちは、行動や表情、あるいは直接的な表現などで表されることが多いが、情景によっても表現されることをおさえる。例えば、「空はからっと晴れていて、もずの声がきんきんひびいていました。」という情景描写がある。これは、その前段の「二、三日雨がふり続いていたその間、ごんは、外へも出られなくて、あなの中にしゃがんでいました。」を受けて、ごんの開放感やほっとした気持ちなどを表している。その開放感からごんは事件を起こすことになる。
- (6) ごんの「気持ちの移り変わり」は一定ではない。「めりはり」をつかむことも大事である。さらにまた、「小さな変化」と「大きな変化」との関わりはあるのか。あるとすれば、どのような関わりか、なぜそのように関わるのかを考えさせる。

IV 指導計画（指導と評価の計画）

次	時	学習活動	評価規準
第一 次	1	○単元とびらを読み、学習の見通しをもつ。 ※全文を通読し、初発の感想を持つ。	関心 登場人物の移り変わっていく行動や気持ちを想像しながら読み、物語にそった主題を考えようとしている。
	2	○「1」の場面を読んで、ごんの性格を読み取る。 ※ごんは「小」ぎつねであって、「子」ぎつねではない。	描写などとも関わらせながら、想像豊かに読んでいる。
第二 次	3 ～	○ごんと兵十の心情が分かる表現を場面ごとにワークシート ～ に書き出し、互いの心情の移り変わりを心情曲線に表す。	描写などとも関わらせながら、想像豊かに読んでいる。
	⑨ (本 時)	○「ごんぎつね」と「ごん」の違いや、兵十とごんの「ひとりぼっち」の違い、ごんの心情の移り変わりを検討する。	書く 主題を考えるなど、関心のあるところから書くことを決めて
	10	○ごんを撃った兵十が、その後でしたことを考える。	

	・	※物語冒頭の一文「これは、わたしが小さい時に、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。」につなげる。 ○物語の副題を考えて発表する。	書いている。 言葉 性格や人物を表す言葉が、文中で使われていることに気づく。
第三次	12	○紹介したい本を選び、「読書発表会」の準備をする。	紹介したい本を数冊選び、「読書発表会」で進んで発表しようとしている。
	～		
	13		
	14	○「読書発表会」をする。	
	～		
	15		

V 校内研修とのかかわり

本校の研修主題は「自他の思いや考えを大切にし、よりよい人間関係を育む児童の育成」である。他者と関わり合い、良好な関係性を築くには、その意義について学んだだけでは不十分である。年間900時間以上ある授業において、普段から他者と関わり合い、課題を解決していく過程でより良い人間関係を育む学習体験が必要である。段階的には、まず一人一人が個人として確固たる意見を持ち、その上で隣同士や小集団で話し合ったり、ときには座席を離れて自由に情報交換をしたりする交流体験が重要である。単元を通して協同的な学習を進め、互いに高め合い成長し合う児童を育てていく。

VI 人権教育とのかかわり

自由に意見を表明したり、集まってグループを作ったり、目的に合わせて自由な活動を行ったりすることは、児童が協同して問題を解決し、ともに成長していくために重要である。一方で、関わり合うことに消極的であったり、いきなり答えを相手に教えてしまったり、自分で考えようとせずに相手から教えてもらうことを当てにしていたりする児童の姿も予想される。そうした関わり合いの形骸化を避け、協同的な学習が持つ本来の効果を引き出すために、仲間の成長を願う信頼関係を土台とした学習指導の工夫をしていく。

【育てたい能力・態度】

- 感性：学級のメンバー全員のさらなる成長を追求することが大事だと思う。
- 知性：互いに成長し合う学級は、お互いに認め合い高め合う協力・信頼関係の上に成り立つことを理解する。
- 判断力：「誰」が言ったかではなく「何」を言ったかに目を向け、友達が出した意見について、教材文の叙述に即した根拠と理由をもって議論や意見交流をする。

VII 本時の学習

1 ねらい

ごとと兵十の心情のあり方をベン図に表し、ごとと兵十が最終的に分かり合えたのかを話し合うことを通して、二人が分かり合えたことや分かり合えなかったことを叙述を根拠に説明できる。

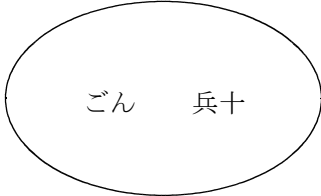
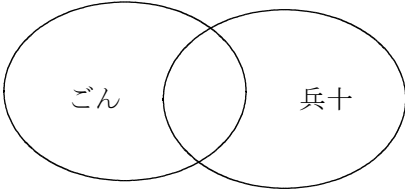
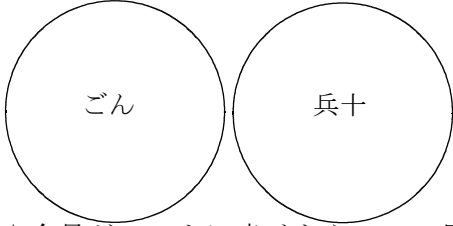
2 準備

- (1) 教師 教科書、心情曲線拡大版ワークシート、教科書拡大コピー、ベン図
- (2) 児童 教科書、ノート、心情曲線ワークシート

3 人権教育の視点

友達の発言のよさに気づくとともに、互いの意見を交流し、互いのよさに学び合う場を設定する。
(共感的関係)

4 展開

学習活動（児童生徒の意識）	時間	○教師の支援及び留意点 ★主体的対話的で深い学びに関わる手立て	評価項目
1 前時までの学習内容を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。	5分	○心情曲線拡大版ワークシートを掲示し、ごんと兵十の心情の移り変わりを振り返らせる。	○めあてをつかむことができたか。 (表情)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【めあて】 ごんと兵十は最終的に分かり合えたのだろうか。 </div>			
(ごんと兵十は分かり合えたのかな。)		★気づいたことを発表させる。	
<p>2 「ごんと兵十は分かり合えたか。」について、考えをノートに書く。 (ごんと兵十は分かり合えたと思う。) (分かり合えた部分もあれば、分かり合えなかった部分もあると思うな。) (ごんと兵十は最後まで分かり合えなかったと思うな。)</p> <p>【A：分かり合えた】 (ごんと兵十は分かり合えたと思う。なぜならP. 47 L8「ごん、おまえだったのか。」とL9「ごんは、～うなずきました。」と書いてあるからです。)</p> <p>【B：部分的に分かり合えた】 (ごんと兵十は部分的に分かり合えたと思う。なぜならP. 38 L8「あんないたずらしなけりゃよかった。」という後悔やP. 39 L1「お</p>	17分	<p>○A・B・Cの3種類のベン図を例示し、二人の「分かり合えた度」を自分はどう考えるか、ノートに書かせる。</p> <p>【A：分かり合えた】</p>  <p>【B：部分的に分かり合えた】</p>  <p>【C：分かり合えなかった】</p>  <p>★全員がノートに書けたら、Aの図を描いた児童を指名して板書させる。「他の図を描いた人はいますか。」と投げかけ、BやCの図を板書させていく。</p> <p>★A・B・Cの3種類の図が全て出されたら、自分の考えを表明すると同時に意見の分布を視覚化するためにネームプレートを貼らせる。</p> <p>★「なぜ、そう考えたか」について、叙述を根拠にノートに書かせる。</p>	○論題について自分の考えを書くことができたか。 (ノート、ネームプレート)

れと同じひとりぼっちの兵十か。」
というごんの思いを兵十は知らない
からです。）

【C：分かり合えなかった】

(ごんと兵十は分かり合えなかったと
思う。なぜならP. 43L5「ごん
は、二人のあとをつけていきまし
た。」というごんの行動やP. 45
L13「おれはひきあわないなあ。」
というごんの気持ちにも気づいてい
ないからです。)

【B-①：重なりが大きい】

(ごんの後悔や思いを兵十が知らない
部分もあるけれど、「ごん、おまえ
だったのか。」と「ごんは、うなず
きました。」のやりとりには、命の
重みがあるからです。)

【B-②：重なりが半分程度】

(兵十には、つぐないを始めたごんの
動機や加助と一緒に歩いている後を
ごんがついてきたことなど、ごんに
ついて知らないことが多いです。で
も、最後には、いつもくりをくれた
のがごんだったことを知って、今
までいわしや松たけをくれたのも神
様ではなくてごんだったことに気が
ついたからです。)

【B-③：重なりが小さい】

(兵十に分かったのは、いつもくりを
くれたのがごんだったということだ
けだからです。)

3 論題について討論する。

(P. 47L8「ごん、おまえだった
のか。」とL9「ごんは、～うなず
きました。」という文章から、二人
は分かり合えた。)

(P. 38L8「あんないたずらをし
なけりゃよかった。」というごんの
後悔やP. 39L1「おれと同じ、
ひとりぼっちの兵十か。」というご
んの思いを兵十は知らない。)

①結論 (〇〇である。)

②根拠

(なぜなら、P. 〇のL△に「～。」
と書いてあるからだ。)

③理由

(たとえば、～。)

④仮定+否定

(もし〇〇であるなら、□□と書い
てあるはずだ。しかし、△△と書
いている。)

⑤結論 (したがって、〇〇である。)

★【B：部分的に分かり合えた】は、
重なり部分の大きさによってグラデ
ーションのように児童の解釈が多様
であることが予想される。なぜ、そ
のような重なりになっているのかを
詳しく説明させる。

15
分

○同じ意見同士の児童で集まり、根
拠と理由について確認させる。

★ノート作業が不十分な児童には、
確認の時間に同じ意見の友達と相
談しながら自分の考えを最後まで
書かせる。

○「A：分かり合えた」→「C：分
かり合えなかった」→「B：部分
的に分かり合えた」の順に理由を
発表させる。

○論題について
討論すること
ができたか。
(発言、ネーム
プレート)

<p>(P. 43 L5 「ごんは、二人のあとをつけていきました。」というごんの行動やP. 45 L13 「おれはひきあわないなあ。」というごんの気持ちにも気づいていない。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○一通り、理由が発表できたら、討論に入る。A・B・Cの3種類が出た場合には、その中で「これは違う。」というものを一つ選ばせ、反論させる。Cが選ばれ、淘汰されるだろう。(最初から出ない可能性もある。) ○A or Bの討論に入ったら、A→Bの順に反論させる。その後、自由に論争させる。 ★討論では、相手側が「なるほど、そうだな。」と納得するような論理的説得を行ったり、「なぜ、相手の意見はではだめなのか。その不備をつく」ように反論したりさせる。特に、「仮定+否定」法を使うようにさせる。 「もし○○であるなら□□と書いてあるはずだ。しかし△△と書いてある or □□とは書かれていない。」 ★途中で時間を取り、意見が変わった児童にはネームプレートの位置を移動させる。その際、その理由を発表させる。 ★討論の途中でも相談に入ったり、相談の途中でも討論に戻ったりしてよいこととする。 ○討論が途切れたら、教材文に戻って相談する時間を設ける。 ○最終的に、叙述を根拠に自分の意見を説明できれば、どの解釈もよしとする。 	
<p>4 本時の学習のまとめをする。 (ごんの「○○…」という言葉と兵十の「△△…」という言葉から、ごんと兵十は分かり合えなかったと考えた。また、ごんの「○○…」という言葉と兵十の「△△…」という言葉から、ごんと兵十は分かり合えたと考えた。二人が分かり合えたのかは、文章からの読み取り方によって違うことが分かった)</p>	<p>5 分</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ごんと兵十最終的に分かり合えたのだろうか。」という本時のめあてに対して、考えをノートにまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習のまとめをすることができたか。 (ノート、発言)

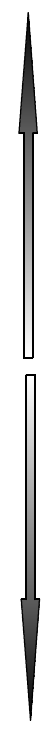
<p>5 本時の学習について振り返りをする。 (「〇〇」と「△△」という文章から□□□…ということが読み取れたから、ごんは兵十と分かり合えなかったと考えることもできた。でも、二人が分かり合えたという考え方も分かった。) (みんなで意見を出し合いながら学習を進めると、一人ではわからなかったことが読み取ることができる。)</p>	<p>3分</p>	<p>○何を学んだか、どのように学んだか、自分の学習活動を振り返りながら発表させる。</p>	<p>○本時の学習について振り返ることができたか。 (ノート、発言)</p>
---	-----------	--	---

『ごんぎつね』

人物の気持ちを心情曲線で考えよう

名前【

にくい
 仲間だ
 にくい
 すぎ
 ふつう
 仲間だ
 すぎ
 ふつう
 にくい
 すぎ
 にくい



場面		1	2	3	4	5	6	
登場人物の心情を表す言葉・表現 相手に対して心が近づいているかどうか		5						
		4						
		3						
		2						
		1						
		兵十		5				
				4				
				3				
				2				
				1				
ごん		1						
		2						
		3						
		4						
		5						